

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時職員で話し合い作成。利用者を中心とし、地域交流や自然に満ちた環境を活かした癒される場所づくりに努めている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示している。定期職員会議(1回/月)内で、ケア方針の検討と共に、理念について確認を行なっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ケアプラン説明時や地域運営推進会議の際に、理念を基にした取り組みについて話し合っている。イベント開催時には広く参加を呼びかけ、ホームの雰囲気を感じていただけるように努めている。	○	会議時などで具体的な取り組みを提示し、家族、地域へ協力を呼びかけていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者は近隣宅へ定期的に訪問し、ホームの状況説明や意見の確認を行なっている。特に地区区長、民生委員のご夫妻へは、イベント実施や地域交流に関しての相談を随時行なっている。職員は、利用者や散歩の途中に回覧板を提出したり、買物時に声を掛け合えるようなお手伝いを実施している。また、隣接する運動場を使用する学生や老人会の方々に差し入れを持っていったり、お茶を飲みによってもらえるような働きかけを行なっている。近所の小学生は友達と連れ立って、日常的に遊びに来ている。	○	グループホーム、認知症への理解を得られるよう話し合える機会作り。離館時の搜索や災害時の避難等で協力をいただけるよう、関係の強化を図っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや清掃活動に参加、地域活動の一環としてホームの行事を企画、交流の機会づくりに努めている。押し花教室や演奏会など、レク時にボランティアで参加いただいている。	○	今後も同様に取り組んでいき、参加の幅を広げて行きたい。近隣の保育園、小中学校との交流を始めたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>身内の介護相談など、面会時に地域住民からの相談等に対応している。認知症への理解に繋がるよう、必要時に説明をする時もある。新年会、納涼祭など行事時に近隣の高齢者を招待している。</p>	○	<p>地域の高齢者とさらに交流を深められるような具体的な機会を作っていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価に関しては、定期職員会議時に実施の意義について説明し、評価を通して改善が見つかる様にしている。自己評価については、全職員が評価を実施し、管理者とユニットリーダーによりとりまとめ、定期職員会議内で総確認を行なっている。</p>	○	<p>今回が初回評価のため、評価内容を基に改善に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの状況報告、取り組み事案について話し合いを行なっている。会議メンバーからの意見を基に改善点の発見、取り組み内容の確認を行なっている。会議顛末は玄関設置のファイルに綴り閲覧すると共に、管理者による定期訪問や家族面会時に説明している。</p>	○	<p>これまで同様、会議の意見を参考にサービス向上・改善に取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>推進会議メンバーでもある市の保健師による定期訪問があり、意見・情報の交換を行なっている。また管理者も市役所、社協へ定期訪問を行い情報交換を行っている。</p>	○	<p>入居者の安心生活を支える家としては勿論のこと、地域の資源としても機能し、貢献出来るよう行政機関と連携していきたいと考えている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者1名が、成年後見制度を利用し金銭管理を実施している。事務手続きや連絡の支援を行なっている。職員は後見人との関わりの中で、学ぶ機会を設けている。昨年管理者は研修会に参加。今後交代で研修会参加を予定している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議や施設内勉強会にて話し合い、職員の意識確認を行なっている。事故時は報告の徹底により、受傷事故や不穏状態が虐待によるものでない事を随時確認している。</p>	○	<p>虐待の防止徹底に今後も努めていく。防止法が定義する項目で、特に職員の言動面に注意したいと思う。利用者にとって、日頃接する職員の言葉かけが心理的なダメージになってしまわないよう、全員で注意を促していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の文書を基に疑問点等も確認しながら、管理者より説明を行っている。入居後も不安や疑問点等について、面会や訪問時などで随時確認している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、職員、管理者により意見を確認できるような時間、体制を設けている。家族へ伝えた意見も随時確認し、頂いた意見は職員会議や運営推進会議の中で、話し合いを行い、改善を図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の状況に合わせ、緊急時を除き、面会時や管理者の訪問時に状況を報告している。面会の少ない家族には、電話での報告を行っている。	○	距離や生活状況により、家族への連絡が取りにくい場合もあり、今後はホームたよりを作成するなど実施していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議や面会時の意見を、管理者・職員が確認し、改善に向けた話し合いを定期実施している。また、家族アンケートの実施や管理者による家庭訪問、玄関に設置した意見箱の活用もお伝えしながら、気軽に意見を頂ける雰囲気づくりに努めている。面会時は管理者を中心に、ユニットリーダー・計画作成担当が応対するよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換を行なっている。ユニットリーダー及び管理者は職員個別面談時にも意見確認を行ない、改善に繋げている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各勤務者への申し送り時に、利用者の状態や家族の都合・要望などを確認し、状況に合わせた対応が可能なよう、ケア内容や勤務体制を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動や退職予定がある場合は、速やかに利用者へ伝えられている。異動者は出来るだけ早い時期から業務に携わる時間を設け、少しずつでも馴染みになりやすい状況作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強委員会により、定期勉強会を実施、ホーム内でも同様に実施している。外部研修へは、管理者が、職員の経験に応じた研修参加計画を立て、希望者と合わせて参加している。研修後は報告を職員会議内で行い、情報を共有できるようにしている。	○	幅広い内容の研修に参加、勉強会を実施出来るようスケジュールを組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会における研修会に参加している。近隣のグループホームとの交流会や管理者、職員間の情報・意見交換を実施している。また、同業者である職員の知人もボランティアで来所するなど、交流を通し良好なネットワーク作りを行なっている。	○	全員が交代で、計画的に参加出来る交流内容を考えていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットリーダーを中心とした職員間の話し合いの時間、管理者による個人面談を実施し、ストレス軽減に向けた意見交換を実施している。	○	全職員均等の休憩時間・場所の確保を行なっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談のなかで、勤務状況や目標などを話し合っている。職員の経験年数等を基準として、ホーム内での役割、目標を設定し取り組んでいる。	○	勤務評価表(自己・他者)を作成し、定期的な確認のツールとしたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者やリーダーは、入居されるまでに、可能な限り自宅や入居先の施設を訪問させて頂き、本人や家族から話を伺う時間が設けられるよう努めている。またホームへも来ていただき、場所の雰囲気やケアの様子を確認していただけるよう調整している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項同様、訪問や来所にて本人・家族の要望を確認できるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた段階で、必要性も含め状況の確認をしている。その際に他のサービスに関しての情報や、必要により地域の社会資源やケアマネの情報等を伝え、家族が選択の幅を広げられるよう支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居されるまでに、訪問や来所実施にて、可能な限り時間を取らせていただき話を伺っている。数回の相談によって利用者及び家族の疑問、不安の解消が出来るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者の皆様の意見を参考にしている。調理や裁縫など、一人一人の得意な事が行なえる場を暮らしの中で設け、職員が教わりながら実施。共に支えあいながら生活しているという気持ちで接し雰囲気作りとしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活上の状態を報告すると共に、ケア方策についてご家族へ提案を行い、意見やケアのポイントを確認している。また、行事などへ随時参加を呼びかけ、楽しみを共有していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のそれぞれの気持ちは、これまでの関係や現在の立場で異なるものである事を、全職員が認識し、ホームでの生活において本人にとって支障ない良好な関わりを続けていただけるよう調整に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や知人宅への訪問、教会の礼拝、馴染みの理容店で散髪に出かけるなど、利用者や家族の要望に応えられるよう調整している。文通や電話による会話への支援も行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションやお茶の時間を取り交流の機会を多く持っている。掃除や調理など、一人一人の役割を持ち協力しながら生活している。	○	利用者毎に異なる生活暦や価値観を、職員が間に入り調整することで、今後も共同生活を円滑に行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、希望により併設するデイサービスを利用され、良好な関係が継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者にケア担当職員を決めており、生活の中での要望等を確認している。ケアカンファレンスや職員会議にて随時検討し意向に則した暮らしに繋がるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や施設から、できるだけ細かい話を伺い、本人にとって快い生活に繋がるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員の観察により過ごし方を確認。ケース記録、業務日誌、申し送りを活用し、情報の漏れが無いよう努めている。訪問看護師や往診医師との連携により、心身状態の把握に努め、状態に応じた生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に家族へ本人の状態を報告、また面会時などに意向を確認し、ケアの内容について相談している。ケア担当者が本人のニーズを生活の中から確認し、計画作成担当者を中心に定期カンファレンス(概ね1回/3ヶ月)や職員会議(1回/1ヶ月)の中で話し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画作成担当を中心に全職員で計画の見直しを行なっている。見直し以前に生じた状態の変化の際は、速やかに本人・家族へ報告、相談を行い、新たな介護計画の作成を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録へ生活上の変化、他者との関わりや自らの行動、発言などを記入している。それらの情報は毎日の職員間の申し送りですぐ確認し、良好なケアに活かしている。	○	ケア記録について職員によりレベル差が出ないように随時見直していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの契約で、医療連携体制加算の指定を受けている。通院時に家族介助が困難な場合は、職員による付き添いを実施している。また、併設する通所介護事業所との交流も必要時実施している。	○	今後も同様に実施していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お祭りなど行事やレクの際に、地域からボランティアに来ていただいている。消防・避難訓練の実施時は消防署員と共に近隣住民の方々の参加もいただいている。地域の文化祭などへも随時参加している。	○	今後も同様に実施していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退居時のケアマネ等への連携は実施している。現状としては、医療連携以外では生活上特に要望が無いため、他のサービス利用は実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では地域包括支援センターとの協働はしていない。権利擁護など、今後総合的な必要性を検討し連携していきたいと思う。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に協力医の説明を行い、同意していただいている。協力医師による1回/月の往診を実施。週1回の訪問看護師との連携にも留意し、状態に応じた医療対応が出来るように努めている。歯科受診などは要望にあわせた診察を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医師からは生活上の支援方法等、詳しくアドバイスをいただいている。薬に極力頼らない支援を医師からの提示としてあり、職員共通の認識として実践に努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ看護師による週1回の訪問看護を実施。併設事業所の看護師とも馴染みの関係となっており、利用者から健康相談などに出向く様子もある。市の保健師の定期的な訪問もあり、同様に交流している。	○	併設事業所の看護師からの支援体制も整備していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は管理者や職員が病院を訪問し、状態確認や情報交換・状況把握に努め、早期退院に備えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化していく過程において、家族や協力医との話し合い、相談を随時実施し具体的なケア方策を検討している。終末期ケアの対象者が出た場合は、本人にとって望む最後を迎えられるよう、支援に努めていきたいと考えている。	○	今後発生するであろう状況を予測して、具体的なケアに備えた事前の話し合いを実施していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の方が「できること・できないこと」の見極めを話し合いの中で引き続き実施し、支援に繋げていきたいと考えている。現状では対象者がいないため具体的ではないが、終末期に向けた支援の体制を今後は明確にし、家族・協力医・職員が連携していけるようにしたいと考えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間での事前の話し合いを充分に行なうようにしている。転居後も問い合わせがあれば、都度対応出来る体制にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時に個人情報保護についての誓約書を交わしている。日常の声掛け等も状況毎により、利用者の人格に配慮した対応を心がけている。勉強会や職員会議のなかで、プライバシーについて話し合っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	状況により選択できる場面の設定を行ない、本人の自己決定を尊重している。待つことを心掛け、希望や意見を表出できる声掛けに気を付けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどのように過ごしたいか希望を伺い、買物など職員からの提案と合わせながら、利用者の希望に添えるよう調整している。スケジュールに沿った予定になる場合でも、どういった場面に喜びを感じていただけるかを気をつけて対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出来る方はご自分で着こなしをしていただいている。行きつけの理容室などへは希望を伺いお連れしている。また希望者へは、美容師免許を所持している職員がカットを行なっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の力量に合わせ、食材の買出しや下ごしらえ、調理、後片付けなど役割を持っていただき、職員と共に実施している。職員も一緒にテーブルで会話をしながら食事を楽しんでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に合わせ買い物時に嗜好品を購入。職員の見守りで適量となるよう、本人に確認しながら提供している。行事時など、適度の飲酒は様子に合わせて実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに合わせてトイレへ誘導している。利用者の様子を観察し排泄のサインを見逃さないようにしている。オムツ使用者もできるだけトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は概ね10:00頃～16:00頃となっているが、入浴日は本人の希望にあわせている。浴室の手すり設置や、重度化された方への対応として、併設通所介護事業所の機械浴を使用するなどで安全にも配慮している。	○	利用者の生活に則した入浴時間(夕方から夜)の導入を検討したい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各利用者希望の時間に休息、睡眠をとっていただいている。安眠に繋がるよう、必要者には日中の活動を多く促すなどの支援をしている。利用者の訴えが他居室での休息の妨げにならないよう、職員は対応に気を付けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量によって、調理や掃除などの仕事を役割として日常的に行なえるように支援している。外出や個別の予定など要望に応え楽しく過ごせるよう職員間で対応を調整している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方には、小額を管理していただいている。この場合は必ず家族の同意を得ている。管理困難な方は、小額に限り小遣いとしてのお金をホームで預かり、出納チェックを行い管理している。日常的に買い物に出かけているが、その他に毎週木曜日に食品の移動販売車が来て敷地内でも買い物ができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日買い物やドライブなどに希望者を募り出かけている。教会の礼拝や知人宅での訪問など、個別の外出も予定を調整しながら対応している。個別の要望に対しては家族の了承をいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	電車を利用した遠足や、中学陸上記録会の応援、孫の結婚式への出席など、要望に応え集団や個別に出かける機会を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者、家族の希望を尊重し自由に対応している。電話の取次ぎや手紙投函の支援を行なっている。緊急時以外の夜の電話は双方の都合を配慮し遠慮していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の来所は頻繁に行われていて、気軽に出入りできる雰囲気が作られているように感じる。訪問時間は定めていない。訪問時はゆっくりと面会をしていただけるよう、居室利用や居間での交流など状況に応じて案内している。職員の心構えとして、明るい挨拶と歓迎の気持ちを持ち、居心地の良い場所作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。職員会議での議題として随時話し合い、職員統一の理解としている。	○	引き続き身体拘束ゼロの取り組みをしていく。その中でもスピーチロックは安易に陥り易い項目なので、注意していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関に鍵はかけていない。居室の窓も開閉自由となっている。利用者の行動を理解、把握し声掛けと見守りを重視している。来客への迅速な対応のため、玄関へ通じるドアには鈴が付けてある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室へ何う際は、ノックや声掛けをおこなっている。日中は常時利用者の行動等を確認し、職員の声掛けの徹底により、見守りの不備がないようにしている。夜間は定時巡視のほか随時安全確認を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各利用者の状態に合わせた環境作りを会議時等に検討している。洗剤類、薬品類、はさみなど刃物は、極端に危険品としての排除はしていないが、不自然に目に付く場所には置いていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットの報告を発生時に作成し、当日に先ず職員間で改善、再発防止のカンファレンスを行なっている。職員会議時に改善策が適正であったかを再度話し合い、注意の意識を持ち続けるようにしている。利用者毎に起こりえるリスクを見極め、ケア方策を検討している。事故のリスクについては、定期的な勉強会にて対応の確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故時の対応をマニュアルとして備えている。定期勉強会を実施して確認を行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導により、消火・非難訓練を実施している。特に夜間の火災時などで、近隣の協力を得られるよう運営推進会議や交流時に住民にお願いしている。	○	地域の防災会議に参加して、情報の共有を図れるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時や訪問時に生活の様子を報告すると共に、起こり得るリスクに関しても随時説明し相談している。そこで得た要望や意見をケア方策につなげ、ケアプランに反映させている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態の観察を繰り返し、看護師への報告や毎日数回のミーティングを職員間で実施し、異常の早期発見に努めている。特に見逃しがちである、症状が軽度の方への変化への気付きに注意して取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに綴じている。看護師より薬の作用について説明を受け、職員は作用について理解するよう努めている。与薬時のミスが無いよう2回のチェックを行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排便チェックにより利用者毎に対応を検討している。症状に合わせて運動の促し、水分補給、腹部マッサージの実施等を支援している。必要により下剤服用の検討も行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	居室に洗面台、口腔ケア用品の設置あり、毎食後声掛け、誘導、必要者には介助を実施している。拒否などケア困難者へは、その日の状態を見て、デンタルリンスなど取り組み易いことから実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作りとなっている。医師、看護師の指示に応じた内容や当日の利用者の希望に合わせた食事に変更も行なっている。利用者の食事摂取量を記録し把握をおこない、状態に合わせ必要量を確保できるように継続的に支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルを設置している。定期勉強会の実施や会議時に議題として職員間で確認している。法人設置の感染予防対策委員より感染症に対する予防と対応策について定期の案内を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士・看護師の確認により食品の保存や調理器具の保管等、衛生管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を植え、明るい雰囲気創りに努めている。玄関内も採光に気を付け、施錠のない開放的な印象となるよう心がけている。	○	併設事業所の玄関と区別がしにくいいため、看板作成など分り易くなるよう工夫をしていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意見を基に定期的に壁飾りなどの模様替えを行なっている。居間から外のウッドデッキに通じるガラス戸は大きく開放的となっている。居間から台所が見えるため、調理の音や匂いを直に感じられている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに畳を敷き和室を設置。気の合う利用者同士、語り合いの場所となっている。各利用者所定の座席を設け仲の良い方が近くとなるよう配慮している。玄関の外には日光浴を行なえるよう、椅子を配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物品を持参していただけるよう、家族へは案内をしている。必要に合わせ持ち込んでいただくことで、各自が安心して生活できるように支援して行きたいと考えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の換気や室温の調節を行い、利用者の心身状態や希望に応じて換気、空調の配慮を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計に、廊下・トイレ・浴室には手すりが設置してある。動線の障害物を排除し、各自の状態に合わせ安全に過ごしていただけるよう配慮している。十分な広さを持ったフロアや併設の通所介護事業所も合わせて使用し、憩いの場所として活用されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前の名札掲示やトイレの標準的な表示のほかは特段の用意はなく、各自のわかる力によって混乱無く過ごせている。職員も見極めを行い、過介護にならないよう見守り重視を実施している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにプランターを設置して、花の手入れを実施している。暖かい季節には、その場所でお茶会も開いている。また、隣接の公園の一部を菜園として利用させていただいており、野菜作りも楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ほぼ毎日の外出支援を行い、利用者の楽しみ創造、ストレス解消へと繋げている。 ・利用者を敬い尊重する姿勢を基本としながらも、より家族的な関係に近づけるよう、親しみを込めた声掛けや対応を行なっている。(硬すぎず、砕けすぎない関係) ・個別の要望に則したケアはもちろんのこと、状態により変化する日々の欲求を察知できるよう職員は心がけている。(ニーズ以上のウォンツを捉える) ・併設事業所(通所介護)との交流を常時行なっている。利用者や職員とも顔馴染みとなり、支援者や活動内容の幅が広がっている。 ・併設事業所に設置の足湯コーナーを利用し、フットケアを行なっている。 ・面会以外にも、家族宅へ定期訪問を行ない、生活状況の報告や要望・意見の確認を行なっている。 ・お祭りなどを企画し、地域との交流を求め関係構築に努めている。SOSネットワークなど、利用者や地域の方々が理解協力し合いながら、共に安心して暮らせる地域作りを、中長期的に実施していく計画である。